中谷外科病院の理念ー患者様とともに歩む

くまのみ通信 –中谷外科病院広報誌–

第35号
2015年4月発行

発行元
医療法人吉備会
中谷外科病院
患者サービス向上委員会
委員長　中谷紳

〒706-0001
玉野市田井 3-1-20
TEL　0863-31-2323
FAX　0863-31-8486

ホームページ
http://www.nakatani-hosp.jp
E メール
Goiken@nakatani-hosp.jp

外来診療時間
月～金　9:00～12:00
15:30～18:30
土　9:00～12:00

＜中谷外科病院　基本方針＞

Ⅰ：常に患者様の立場に立ち、行動する。

Ⅰ：消化器内視鏡、大腸肛門病の専門病院として最新・最善の医療を提供する。

Ⅰ：多職種間によるチーム医療の充実をはかる。

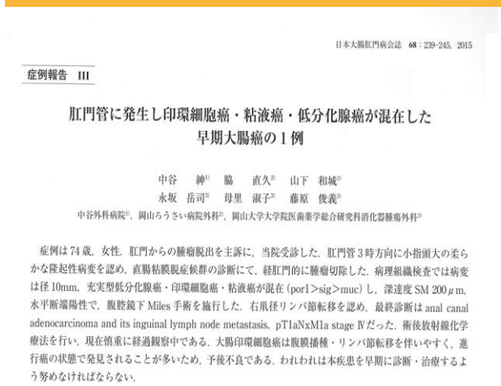
Ⅰ：在宅復帰を支援し、社会に開かれた地域医療を行う。

Ⅰ：職員同士の和を重視し、思いやりのある医療を実践する。

「地域医療と専門医療」

新年度を迎え、皆様方には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
昨年度は思わぬことに岡山県栄養士会からお声がかかり、地域住民を対象とした糖尿病教室の講師となる機会を得ました。一日の殆どを病院の中で過ごしている私にとり、院外での地域の人たちと交流はとても新鮮な経験でした。病気や怪我の治療は我々の重要な使命ですが、病気にならないのが一番良いに決まっています。今年度は住民教育などの予防医学にもっと積極的に取り組んでいこうと考えています。地域医療の柱は予防医学であり、これは医師だけでなく全医療従事者の課題でもあります。
私たち中谷外科病院スタッフは、これまで大腸肛門病、消化器内視鏡の専門性を生かすため、職員同士が和を大切にし、切磋琢磨しながらチーム医療の実践に取り組んできました。この経験を通じて得たノウハウを予防医学に生かし、専門医療との二本立てで地域医療に貢献していきたいと思います。今年度も引き続き叱咤・激励いただきますようよろしくお願いいたします。

日本大腸肛門病学会雑誌に論文掲載


日本大腸肛門病会誌　68：239-245，2015

症例報告　III

肛門管に発生し印環細胞癌・粘液癌・低分化腺癌が混在した早期大腸癌の１例

中谷　紳[1]　脇　直久[2]　山下　和城[2]
永坂　岳司[2]　母里　淑子[2]　藤原　俊義[2]
中谷外科病院[1]，岡山ろうさい病院外科[2]，岡山大学大学院医歯薬学総合研究科消化器腫瘍外科[3]

症例は74歳，女性．肛門からの腫瘤脱出を主訴に，当院受診した．肛門管３時方向に小指頭大の柔らかな隆起性病変を認め，直腸粘膜脱症候群の診断にて，経肛門的に腫瘤切除した．病理組織検査では病変は径10mm，充実型低分化腺癌・印環細胞癌・粘液癌が混在（por1＞sig＞muc）し，深達度SM 200μm，水平断端陽性で，腹腔鏡下Miles手術を施行した．右鼠径リンパ節転移を認め，最終診断はanal canal adenocarcinoma and its inguinal lymph node metastasis，pT1aNxM1a stage Ⅳだった．術後放射線化学療法を行い，現在慎重に経過観察中である．大腸印環細胞癌は腹膜播種・リンパ節転移を伴いやすく，進行癌の状態で発見されることが多いため，予後不良である．われわれは本疾患を早期に診断・治療するよう努めなければならない．

久しぶりに書いた論文が日本大腸肛門病学会雑誌に掲載されました。非常に珍しい大腸癌の症例報告です。拙い論文ではありますが、将来この領域の診断・治療のために役立てばこれに優る幸せはありません。
最新最善の医療を提供するため、これからも少しずつコツコツと勉強していきたいと思います。

平成 27 年 4 月吉日　　中谷外科病院　院長　中谷　紳

第８回院内研究発表会（２月２１日）

年１回開催している院内研究発表会も今年で８回目となりました。
今回も各部署・委員会から業務改善などに関する様々な発表があり、大変有意義な時間を持つことが出来ました。テーマごとに講評を掲載しました。

	部署・委員会	テーマ
c1	院内感染委員会	抗菌薬適正使用について
講評	抗菌薬の使用量の推移と CRE 等耐性菌の増加への警鐘を促す発表。専門性を生かし、抗菌薬の使用許可制をさらに継続していってほしい。	
2	事務部	データ提出加算について
講評	地域包括ケア病床、始動に向けたとり組みを発表。データ入力加算の算定方法を分かり易く、スライドを駆使。表現方法があかぬけしていた。日頃の努力の賜。	
3	看護部　看護助手	助手のお仕事
講評	チームにおいて多々実施される業務を見直すことにより、人間関係やコミュニケーション内容をも改善することが出来た。とても分かり易く、楽しく表現されていた。	
4	看護部　病棟Ｂチーム	～食べたいという思いを支え、その人らしく生きる～ 『肺気腫でターミナル期の患者との関わり』
講評	終末期にある患者の食べたいという思いを叶えるために看護師の葛藤と、その欲求を満たすための努力。家族の思いなどを如実に表現できた。目頭があつくなった。	
5	褥瘡・ＮＳＴ委員会	咀嚼機能と主食について
講評	軟飯の水分量を工夫していく様がわかりやすく科学的に表現され、具体的で誰もが納得できる有意義な発表であった。	
6	医療安全委員会	ベッド柵の安全使用について
講評	ベッド柵の安全使用がテーマ。患者様個々にあった。ベッド柵の使用を通してより安全で転倒・転落のリスクを減らす工夫なども紹介されていた。自立支援、感染防止等への配慮があった。	
7	患者サービス委員会	退院時アンケートを通して
講評	回収率が８０％を超え、患者様の生の声を聞かせて頂いている。２年間での集計数が１０００枚を超え、中には厳しいご意見もあり、すぐ解決出来るものは改善し、患者様にお返ししている。過去２年間は看護部のみのアンケート調査だったが、今後、全スタッフに対する設問内容とし、継続していきたい。	
8	看護部　病棟Ａチーム	終末期医療の視点からリビングウィルを考える
講評	リビングウィルについて死へのテーマ。患者様のためにリビングウィルをもとに終末期患者への看護を通して、学んだ症例。家族の心の移り変わりもとらえることが出来ていた。	
9	看護部　外来	外来業務改善事例
講評	チームにおける業務改善に取り組む中でコミュニケーション方法を工夫することにより人間関係を改善することが出来た事例である。	
10	診療部	糖尿病予防教室の講師を経験して ～地域医療との新たな関わり～

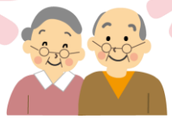
講評　看護師長　　新田　照美

～最新式 DR 方式 X 線撮影システム導入～

今年 3 月にフラットパネルセンサーを使用した最新式の DR 方式 X 線撮影システム(Digital Radiography)を導入しました。従来の CR 方式(Computed Radiography)では 1 枚の X 線写真撮影後、画像が出来上がるまでに約 30 秒かかっていましたが、この装置では約 1 秒で画像が表示され確認することができます。したがって、何枚も X 線写真を撮影する場合でもトータルの検査時間を大幅に短縮することができます。さらに患者様が心配される X 線による被曝線量も減少させることができます。従来と比較して約 1/4 の X 線量でも高画質な X 線画像が得られるとされています。また、衛生面においても十分な配慮がなされています。患者様の身体に接触する撮影カセッテ表面を銀系抗菌剤でコーティングした世界で初めての「抗菌仕様」の X 線画像診断装置ですので清潔で衛生的な検査を行うことができます。今後、当院ではこの DR 方式 X 線撮影システムを使用して質の高い X 線画像を提供し、患者様に安心・安全なレントゲン検査を受けていただけるよう努力してまいります。

放射線技師　　大川　義弘

岡山大学病院　摂食・嚥下リハビリテーション従事者研修会 １０周年記念講演会へシンポジストとして参加



シンポジストとしてお声かけ頂き、3 月岡山大学病院　摂食・嚥下リハビリテーション従事者研修会　10 周年記念講演会において、「当院の摂食嚥下リハビリテーションの現状と課題」と題して、これまでの取り組みを発表させて頂きました。
当院は医師・看護師・管理栄養士・理学療法士・薬剤師で構成される摂食嚥下チームで活動しており、患者さまの状態にあった食事形態の調整、食べるための口腔ケア、摂食嚥下訓練など行っています。また摂食嚥下の基本的な知識・技術の習得を目的に、5 年前から毎年数名ずつ岡山大学病院の研修会に参加し、現在 10 名が研修を無事終えました。「食べる」ことは特殊な治療行為ではありません。「食べる」ことは「生きることの土台」です。「食べる」ことを学問としてしっかり学び、専門性を高め、また患者さまに暖かく寄り添うことのできるチームに育っていけるよう今後も努力していきたいと思います。

管理栄養士　松本　英子

～新人紹介～

薬剤師：秋中　法実

Q. 好きな言葉は？
A. 『思いやり』
Q. 趣味は？
A. 映画鑑賞
ドラマを見る
コンサートに行く
Q. 薬剤師になろうと思ったきっかけ
A. 小学生の時祖母がたくさんの薬をもらった時に「身近に薬剤師がいてくれたらな」の声をきっかけに。

作業療法士：武智　大輔

Q. 好きな言葉は？
A. 『なんとかなるさ』
Q. 趣味は？
A. お酒を飲むこと
読書
Q. 作業療法士になろうと思ったきっかけ
A. 資格が必要であると思い、日常生活に関するリハビリを行っている作業療法士を志しました。

外来看護師：宮西　久美子

Q. 好きな言葉は？
A. 『笑顔』
笑うと良いことが
やってくるから好きです
Q. 趣味は？
A. おいしいものを食べる
こと電車の旅
Q. 看護師になろうと思ったきっかけ
A. 戴帽式に憧れて

～スタッフのひとりごと～

春を告げるうぐいすのさえずりが聞こえる春になると「初心忘れるべからず」のことわざを思い出します。
中谷外科病院に勤めさせて頂いて人生の半分が過ぎました。
入職当時は手書きのレセプト作成からはじまり、現在まで、めまぐるしい変化の中を駆け足で、精一杯やって来ました。結婚・出産・子育て・そして介護…嬉しいこと・悲しいこと、幾多の事がありました。その時折、いつも、理事長・院長をはじめ、患者様・スタッフの皆様が励まし、支えて下さったことに感謝・感謝です。
物事に対して、心のとらえ方、考え方次第で、【良く】も【悪く】もなります。
私は前者を心情とし、いつも笑顔で、人生前向きに、これからも頑張っていきたいと思います。

事務部　田坂　晴美

～花粉症対策～

春の足音が近づいてくると飛散しだす花粉に悩まされている人は多いと思います。
そこで花粉症の基本対策をご紹介します！

- 花粉情報をチェック
  テレビやインターネットで気象情報や花粉情報を入手しましょう。

- 外出を控えめに
  花粉の飛散の多い日は特に注意が必要。1 日のうち飛散の多い時間帯（午後 1 時～3 時頃）の外出もなるべく控えましょう。
- 枕元の花粉を拭き取る
  床の上はもちろん、ベッドにも花粉はたまっています。寝ているときに花粉を吸い込まないように、枕まわりの約 1m ぐらいを水で少し湿らせたティッシュやタオルで拭き取りましょう。

花粉症の症状を軽くするためには、治療とともに花粉が体に入ってこないようにする注意や工夫が大切です。
積極的に花粉症対策に取り組み、つらいシーズンを乗りきりましょう！！！

事務部　三宅　里歩